

# 今月の星空



川口市立科学館  
Kawaguchi Science Museum

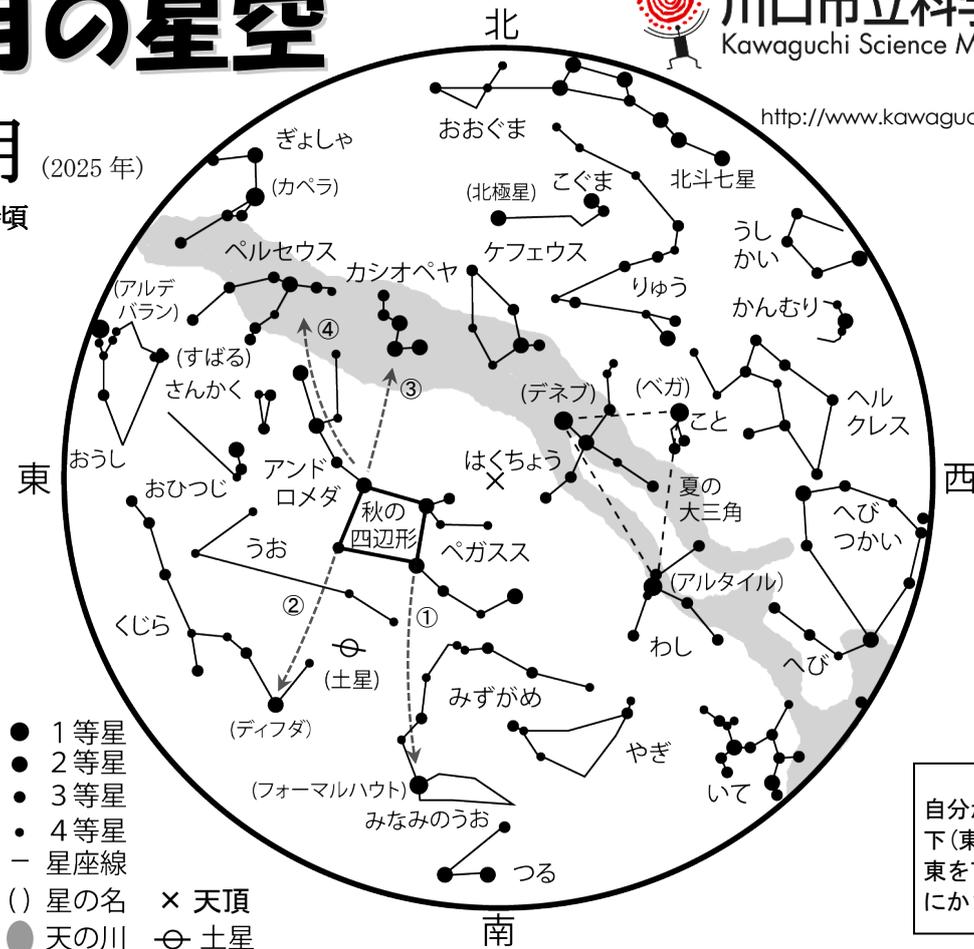


tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

10月 (2025年)

中旬 20時頃



星図の見方  
自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

月 齢 ○ 満月 7日、● 下弦 14日、● 新月 21日、● 上弦 30日

惑星情報 金星 日の出前 東(しし→おとめ座 -4等) 木星 真夜中 東(ふたご座 -2等)  
土星 夜のはじめ頃 南東(みずがめ座 1等)

## ☆秋の夜長におすすめ！秋の星座のたどり方

星座探しの目印「秋の四辺形」が空高く昇り、いよいよ夜空も秋の装いとなります。目立つ星は少なめですが、ほどよい間隔で配置された2~3等の星々が澄んだ夜空に映え、落ち着いた印象を感じさせます。定番のたどり方は、秋の四辺形の各辺をのぼす方法です。星図のとおり、南側(点線①、②)へたどると、フォーマルハウト(1等/みなみのうお座)とディフダ(2等/くじら座)が見つかり、それらの間には、惑星特有の輝き\*を放つ土星が目立ち、アクセントとなっています。一方、北側(点線③)には、5つの星がw形に集まったカシオペヤ座が見つかります。星の明るさ、並びともに均整の取れた星座の1つです。また、北東側(点線④)には、アンドロメダ座からペルセウス座へと明るい星が点々と続きます。\*惑星は恒星とは異なり、大きさ(面積)を持って光っているため、地球大気の影響を受けにくく、ほぼ瞬かない。

## ☆お月見をしよう~10月6日「中秋の名月」、11月2日「十三夜」~

10月6日は、旧暦の8月15日にあたる「中秋の名月(十五夜)」と呼ばれるお月見の日です。七夕と並び、古く中国から伝わり、現代の日本でも広く知られた天文に関わる行事の1つです。また、旧暦の9月13日にあたる「十三夜」と呼ばれる日本独自のお月見の日もあり、今年(2025年)は11月2日です。前者は、月齢15のほぼ満月(翌7日が満月)であるのに対し、後者は月齢12(満月の3日前)の少し欠けた月です(右図参照)。

中秋の名月の見どころの1つは、肉眼でもわかる月の模様です。その模様は「餅をつくうさぎ」や「かに」などに例えられてきました。模様を見るのであれば、月が空高く昇る夜の遅い時間帯(月がまぶしく見づらい)よりも、まだ昇ったばかりで、大気の影響を受けて黄色みがかって見える夜の早い時間帯が見やすいかもしれません(月の出…16:41、日の入り…17:18)。また十三夜の月は、17時台には30度ほどの高さに昇っています。望遠鏡で欠け際に注目すると、クレーターなど表面の様子も観察できます。

ただのんびりと眺めるもよし。双眼鏡や望遠鏡で観察するもよし。色々と想像をめぐらせるもよし。当日晴れることを願って、それぞれの方法でお月見を楽しみましょう。



図 満月(上)と十三夜の月(下)